

二〇一六年三月一八日

山笑ふ大吊橋の揺れに揺れ
深山道明るうしたる山桜
摩仁車止まる間のなき彼岸寺
学び舎の別れの窓に燕来る

有 香

ともえ

宏 虎

智恵子

二〇一六年三月一七日

堰落つる水音も春や里山路
花街の路地をよこぎるうかれ猫
力士宿干せるまわしに春日燦
春の月ベールのような暈かぶり

明日香

なつき

こすもす

菜 々

二〇一六年三月一六日

日溜りに背伸びしてをる路の薑
手庇しにミモザ見上げる空ま青
鈴なりのひょうたん絵馬に風光る
せせらぎの奏づに沿ひて梅探る

豆 狸

よう子

よし女

満 天

二〇一六年三月一五日

ま白なる馬柵に沿ひゆく園児帽
車窓なる指呼の山巔春の雪
群れ千鳥点描なせる大千潟

さつき

満 天

三 刀

二〇一六年三月一四日

漕ぎ出せる十石舟に風光る
窯煙ひとすじ立ちて山笑ふ
対岸の浮島めきし春霞
扁額の裏に鳥の巢札所寺

菜 々

菜 々

せいじ

なつき

二〇一六年三月一三日

夕映えの駅舎の屋根へ初つばめ
春愁や芯折れやすきシャープペン

なつき

豆 狸

二〇一六年三月一二日

ヒ首の月いよいよ反りて冴え返る
母の手をぎゅっと握りて入学児
白駒のひづめが刎ねる春の泥

ひかり

智恵子

とろうち

毎日句会みのる選・二〇一六年三月二〇日